

見えない子供たちの現実

家庭教師の目



新学期間近、塾・家庭教師どう選ぶ？

もう間もなく、桜の花咲く新学期ですね。読者の皆さんのお子さんたちも、新しい学校、新しい教室で学ぶ期待に胸を弾ませていることでしょう。担任の先生はどんな人だろうか、友達は出来るだろうか―子どもたちはそんな思いを胸に、新しい環境に一日も早く馴染んでいかないとはいけません。

それと同時に求められるのが、よりレベルの高い学習です。当たり前のことですが、勉強が難しくなるのです。これはお子さんだけでなく、親にとっても相応のプレッシャーになっているのではないのでしょうか。来年もしくは再来年あたりが受験、というようなお子さんをお持ちなら、なおのことでしょう。

その中で、「うちの子は学校の授

業だけで大丈夫」と胸を張れる親が、どれくらいいるのでしょうか。

実際は多くの親が、大なり小なり我が子の教育に不安を感じているはずです。一度授業に遅れると自力で学び直すのが困難な今の学校教育の現状を見ると、その心配は無理もないことだと思います。私の会社でも、教育関係の方から家庭教師の依頼を受けることが多いくらいですから、その現状は押し知るべし―なのです。

その結果親が、わが子を塾に通わせるか、家庭教師を付けるか、または通信教育を受講させるかと考えるのは、当然の成り行きでしょう。特に塾と家庭教師のいずれにするか悩む場合が多いようですが、あなたならどうしますか？

ここで問題にしないといけないのは、お子さんの性格です。塾と家庭教師のどちらがわが子に適合しているか、より学習意欲を湧かせるのはいずれか。ここがポイントなんです。

塾に向いている子は、「やる気のある子」「自分から質問できる子」「上位校を目指している子」です。学校と同じ集団授業ですから、そこには競争原理が働いています。その中で個々の勉強の進み具合に合わせた指導を望むのは、酷というものでしょう。

これに対して家庭教師は、適って勉強する必要のある子や、内向的な性格の子、つまり、一対一でじっくり見てあげる必要のある子に向いています。そして現実的には、こういう子の方が多いわけです。

塾の中にも個別指導を謳っているところがありますが、これは三〜四人程度の少人数を一人の教師が担当するということ。確かに集団授業と比べると個別指導しやすいでしょが、あくまで一対一ではありませんから、教師の意識がどうしても分散してしまい、一対一効果は薄いと考えるべきでしょう。

また、学習指導に止まらず、家庭教師が子供たちの良き兄や姉になれることにも、目を向けて欲しいと思います。勉強以前に、思春期の子供たちは親に話せない悩みを抱えているものです。時には気兼ねなくそんなことを話せる先輩が側にいることが、どれだけわが子の助けになるか、考えてみて下さい。

ちよつと家庭教師の宣伝色が強くなつてしまいましたので、申し添えておきます。家庭教師の会社によっては、面接など一切せず、電話だけで登録した家庭教師を派遣してくるところがありますから、注意が必要です。わが子の学力、性格に合った人に来てもらえるよう、派遣前に家庭教師の会社とよく話し合われることをお勧めします。

文・中村信二



1963年福岡県生まれ。家庭教師派遣で福岡老舗の株式会社日本学術講師会、高校入試問題集のベストセラー「虎の巻」出版の株式会社ガクジュツの代表取締役社長。福岡青年会議所で教育問題調査会副委員長や社会参画推進委員会委員長などを歴任する傍ら、TV、ラジオにも出演。現在、貧しい子供たちのための「無料塾」開設を構想している。家庭教師の問い合わせはフリーダイヤル0120-41-7337へ